



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一九九号）

春分 しゅんぶん
三月二十一日

お香

春が来た、と感じるものに匂いがあります。

乾燥していた冬の大地からひと雨ごとに水蒸気が立ち上り、水分を含んだ柔らかな風が春の匂いを運んできます。

東風吹かば匂ひおこせよ梅の花

主なしとて春を忘れるな

菅原道真

（東の風が吹いたなら、香りをよこしておくれ梅の花。あるじがないからといって春を忘れるな）

九州の大宰府へ左遷された菅原道真が、京都の自宅の庭にある梅の花の香りが懐かしいと詠んだ歌です。春になるとどこかしら、甘い匂いが漂う、それは梅の香りかもしれません。

季節が春になると、洋服や靴も明るい色合いに目移りますが、「香り」も変えたくなくなります。そこで、おかげ横丁の「くつろぎや」をのぞくと新作が出ていました。「伊勢三珍花」です。

伊勢の三珍花は、江戸時代後期、伊勢・松阪地方で品種改良され、育成されていたもので、垂れ下がっている花卉が特徴の園芸種です。伊勢撫子、伊勢菖蒲、伊勢菊の三種類あります。道真が梅なら、伊勢らしい花で春を感じるのも一興ですね。

お香は、もともとは中央アジアのパミール高原に発するといわれ、その後インドに伝わりました。紀元前五世紀頃、釈迦が仏教を興すと、焼香としての「香」が盛んに奨められ、日本にも仏教の伝播とともに伝わっていきました。

そして、この伊勢へは伊勢神宮に仕える齋王が伝えたともいわれています。都から伊勢へ赴いてきた齋王が、雅びやかな文化ともいふべき「お香」を運んできた、伊勢にとって「お香」は都の香りだったのかもしれない。

文 千種清美

